



妹
唄
三人
娘
子

^ 13
3165
5



産る希^{のち}父^を去^る跡^をを^つ嗣^ぎ。年^を若^くあ^るま^じど^実
体^もあ^る。得^るま^じり^の情^け物^をけ^しま^じ人^をと^しま^じを^見見^る負^む
ふ^あり。去^る去^る跡^が在^りし^たり。商^の倍^もふ^つけ。そ^の年^を
勤^めふ^あり^ぬる^ふ。似^あ合^ひ一^の稼^をを^要要^すら^そ。家^業昌^の
基^をあ^るま^じ。と^か民^の未^だて^ある^初初^め。親^をき^ん人^の由^り
け^しま^じま^じ。運^つら^うと^の同^じ答^をて。そ^のま^じふ^らさ^るま^じ
つ。家^業成^功之^の勉^めけ^るが。上^と及^相相^生の^織織^えあ^る。是^を
去^る後^をあ^る親^の代^り。万^る取^引を^あん^ふら^う。

三三三三三三三三三三

あ^ら相^から^う。仕^入を^おと^す。年^のう^ちふ^ら六^七度^日。ゆ^に
交^て流^文あ^る。後^あの^ゆを^希希^が年^ふ似^あり^ぬ
休^暇あ^るを^ふふ^あて^ある^づら^う。つ^が児^の如^くい^ふま^じ
こ^の仕^入と^てあ^る度^毎ふ^ら己^が家^を不^運運^ある^まじ^り
隔^あり^ぬる^ふら^う。去^る去^る年^の親^のづ^らう^にお^りひ^て見^る
を^教教^ひ親^に。こ^のま^じ負^む実^不交^りけ^るが。こ^の家^をふ^ら個^を
の^女児^あり^ぬる^まじ^り。去^る去^る深^とま^じ。倣^して^ま。鄙^しく^いふ^ま
繁^華の^地ふ^ら人^とあ^るま^じ。立^挙勤^らう。万^る莊^土の

風を多びて。髪化粧より衣服まで。世風を慕ひ
けり。殊小標致への色ありて。けり。稀ありと賞嘆は年
々。此年十八ありて。けり。由婀娜ある處女あり。こを
けり。足小ける美りのいづ。心を動さるゝありねど。この様
を相生あり。二三を争ふ。又家あり。女児の深窓小
帯ひあり。仮初の出遣入あり。小奴婢女を三四個傳
へて。歩けり。唯とて。まぎれ。若くあり。道よりして物
をけり。暇さくあるべし。と。小去。年春の流流を尋ひ

浪人小源川小源次といふあり。が。尾村うち枯し
うぶあり。まぐり。まぐり。日産を縁ぎ。或ひは桑取の
傳ひあり。その容侘侘小刀をえけり。後あるの
不便小あり。けり。人ど小あり。若くあり。何れどの
仕出さる。若くあり。殊の人あり。恩小あり。て。若く
忘ま下。以あり。武士で。侍で。今。冬。海。う。日産の
小源次。若くあり。小奴小あり。一。年。小。ま。二。年。小
ま。と。小。若くあり。衣。若くあり。小。整。ひ。と。若くあり。郷。小。若くあり。

どうんといふりのあぶし。さうぶ一生の才の落つま。よく
思按して挨拶せよ。と心得の勢といふうち小由。そのま
のまゝ長由強く後難をささるゝ。あまねが土地の
人。氣の憑しくいひけさる。小源次の涙を流し。便
才あき身をまじり。あど小いり下る。世伝切死んで由忘
ましまさん。ぬ。と実あつり。おむあど。然いといふ
右抱へ。小奴とあし。あきけるが。いと母妹。あ小仕る
あど小。後あまのいよき人を海よりとふ小執りて。

何らこのところち住し。譜代庭子小更あつて。隔る
あは小より。小源次のその始め。受りしと由うち忘ん
女児波深をのり小由し。手小のまを女とおをりて。
心を疎く。あど。人目の算のあげさのこころ。あつて
その傍へをづく。便りさく由あきまふ。と。流小
狗を意し。お由あつて。おのひけを。おつて。その年
あゆらさ。夏さく。園て秋近き。あま月の末とあま。
朝より照つる。を日影少。庭のあさ。刻るをり。おの

この中へ大く仕舞。やう遠中あるふり。嘯時さうじのあど波
。母屋の庭うら子舎こやその小庭をまぎて掃除ほうじゆす。
照る日小弱る草と樹へ。うち水あどまるとど小凍風
忽地かどづきして。暑さ忘る心地せり。その時家々小
窓の下小人の低語ささやくこゑ声さるあど。小深次こがたの小首こくびを頷け
「ハテこゝろ異ちがい工かまらひ流深ながみさんのお子舎こやめのと人
の素もとの所ところ。そと小何こなにで中一人の雄おとこ子こ女をんないううう不流深
えん。何なにを密ひそくあし月証つきあかしする。ハテ誰たれぞらうマ、おつ。先

刺蔭さしかげ去いの絹きぬ差さが久ひさしがりとて素もととのりん。皆みなをあどか
先頃さきごころうう。流深ながみさんと美うつくみ素振すぢのう思おもひめ晴あであ眼ん
てあいとと的てき吉利きちりとと色いろ不ふ差さひの移うつりの工かま。乃すなはちち理りとと此こゝ
次中つぎなうう。何なにぞとりんと流深ながみさんが絹きぬ差ささんの何なに振ぢ
あらうら。日月いちげつのままままでで今いまふふんんととええぬぬ勿な論ろん病びやう氣き
の皆みな由よし嘆なげふふ。ままどど快たくくあありりててああいいののううちち拍あ小お解あ
つて足あし出で。ままこの中なかにああいいくく。ハテあいいくくのの奴やつ苦くるごとと。
拍あいいささ家かががうう有あ也や。そそのの算あららううああくく不ふ塞さいぎぎつ。

一ツいおあの軟中つらささお出うけるこら出掛かいイヤ修
の草燭を無谷あらの蔭のわくあア。體中汗騰
るやうどツとヨ」ホニ左折やありまらら。け以の程小
形てさく體のあき新があいやうしでどいままといはる花出
のおあが異て修て定分がありままといはる一杯おあん
あきい」左折うエ。左と是中折て来てあく由勝どのサ。
あらい涼風が来る。何折して由勝の度いうう。異さの後
どの勝りど遠く入。実小花出の建跡で庭とといて由と天

う口又。実小花陶いやうサ。おあ何卒花出へ付て一床
小花とといふけさど。その後いのあア胆を洗をせて
「マア多折小折うどいまはう。人の影一あア花出と
りの土地の大造度くつて一月也二月位。からつて由つんまる
しる。出来あいといひまはうが子「いううア土地の後い
けさど家が一まの建跡を着るうう。後くあのンどア
「マア何で由宜どいまをうう。まや、連て修てお異あ
さいナ」そら又アおあが備候せんと。自己由さうど些

招ハツア 呆あまき。 殊小 氣麻味人どね上。 今さう業
望の花とくして。 止て仕舞位あう。 初めツう。 氣を操ら
まはせん。 今さう知りよ由 思慮うしんづ。 おお招し何
あやう。 物小 暇小 左時で由。 志きうるといふしんあう。 何
ぞ 翠して 花去へ 性き。 史輝といふききて見しふりめと。 忍
ひまてふ 夫由 揃由。 今さうあの中うどけきど。 おお招の
ふゆさうさうを。 まてお祝へを 招あうて。 昔芳を 撰ま
ゆ不孝どと。 おりひ垂しと 時若を 俟て由。 何時といふ

三ノクダナ中十

業由あ。 殊小 氣が 操もその中ふ。 おお招が大痴と。
吹ふのうく。 カが 落。 モシ 万一何招うおあう。 昔併由
物さう 剛川へ 沈んであうと 追慕て。 彼世で 連死と
覚悟して。 居まうと 祈がどんくくと。 快くあまうどと
笑く 嬉しき。 今日久しからまてお目小 かわりて。 ホンニ
うまういふ何のし。 昔併の 命まで 捨つてあうに
かりひまふ。 そまふ今今の せうふおまふと。 悲しうて
ありませんと ぬ神教おあう。 田舎を 見る 夢は 泣。

是より希の忙然として。居たりしが聲を低め「コサを
招小泣家さん。万一人が笑と悪い。今云ふのハア左
招あると。浪風があつて宜と。世も窮し由同招で実
いおあの氣を引て引と。新がひく左招り人
あり。自己も見うろく張を極て。身を抛出して由律
をまかりサ。新詮今の人もあり。表向で相控しちア。
老父邪さんが承知しめぐ。左招うと云て止まらせん。律
ふろくと申へ立て呉と人小。飛ど迷惑をかける由暇

三ノ下二ノ中二

お。とよとよりう何招あつて由。自己とま押小ある。氣
あり。四五親おア済わくけと。一旦強出して暮出
へ来て居て。とよとより人を引て。一をまかりちア。左
招ありわくしとわく。切輪左招しと出入を前後
し。親子の縁を切て仕まふととよとよりア世間へ對
して由。老父さんが後を立て。云ふア遠く移しけと。
更由まアみ年うと年。一生縁がきまじ由せん。を自己
が左招きると。帳合が世むらう。又と安くと由百

あら。日月をくして経水をくぐら。まうう何ぞう拍が
 悪らうら。塞いごうして困つた。その以渾く治るは
 と。穢て窮し不喫てある。悪阻とやう不遠ひあいに
 とまふつけても胎中不苦者ト喫て發く産を希
 流深が後のあうりを見借一た招くやア接し
 せうで。大變あ一件ど。まうまが腹ぢやア初はむ
 一何招して今う知まらんもの。まうモウ一月二月ま
 ちやア月不立ませうヨ。使ごう子産さん些中子くして

三ツツの三ツツ

お呉あさいヨ。今般帰つて出連は月也ア。丁度
 分へかろうら。急を仕舞て十八日。十九日まで也ア
 倍度来る。おあゆその積りで親四不也。曉らるは
 せう不准後をうて指あ一更あう何卒をうら。る
 遠へちやア社ませんヨト大く影一の終る頃矣
 母の聲高く。流深くと呼まらる。徐とあき足次
 席下。産を節由容るのる。別きてわけは表ある。
 小深次の口色を映く「イヤモウ飛と影くもあ。ごら

了を先次日侍の脱の間に間があつて徳澤さんの手を
 把て曳とさす。きこ氣もあく振まつて。進出して後と
 のをまづ情合をうぬ悦惚子うと。そのうへ此方が
 自癒。シテつらると差太めが。居るうちやア所詮うあ
 へぬ。ハテトひひり手を拵き。女時思按のまううう不後
 ちまのが庭まらう。そまことつらううう「う小源次庭の
 赤水毎日お候ご。まううう方ダ丹精で。その始百公の
 の勢へ今う小源次由候まううナ「う見物さんときわ私ダ四

赤公。イヤそのはの異さ強いが。日が長いうう申別ふ。
 あらうと名けて掃除を始め。水をあうう。膳をうう。
 まう長影一をイヤナ。長い日やごううまうう「お登り
 るがううう。彼処の塙垣が破まかつた。あまをををを
 ちて下せ「ハハハ何あうう今ううで由「ナニモウ彼見
 の目が著る。登のふふまうが空トひひり我教へあううけ
 小源次由又あり不。厨の方へ往ううけ。かくて夏夜の
 まうあうう。郭公の一登不。東雲ふさふさううう。

遊あそんでいいとと緩ゆるく。翌あした日ひ小こあありけははゞ例れいのごとく朝あさ胸むねのまま
ひ。差さきさりの後あとをのが居留まりあり「今日けふ由よしままるるの容
子こがら異あらうでいままを「左ひだり招まねサ何がう朝あさう暮る。あ
まま「おおをを及およびして母。格くわ別べつ小こ降くだるあらう。つつアく実じつ小こ僂りゆう
律りつどどららと「一いちエえモもウう何なにと母いいまませんが。二に月げつをうり買ひ
まま。ままやや或あるままに任じじとあらう。疎そ小こ劫きやく定じやうがありままは
後あと「そのその也やアあおおまま會あひあらう。烟えんべべららと煙小こ知ちきやう。丈さか七しちの
おおああの森てらる中。おおをを及およびして大ききまま。四し段だん文ぶんが出て一巨

三ノ巻二ノ中十六

つ。ありありやや又また概がい納なつままのこら「一いちエえ何なにもも手て招まねふいまませんせ
がトりりままりここ「後あとをのが女房むすめおお麻あ由ゆ出で来きり「何なに招まねど一エえ
さんさんおお持もちいい「モもウう一いち向むかむむいいままん。モレれ時とき小こおおをを及およびして文をい
かかららいいままん子「ああらうくく小こささああららいいちちややああののをを。ああららわわくく
いい何なに招まねくくのんどト後あとの手招まねをひままああけて。後あと面めんをを
ららいい「アあおおととああららやや定じやううう。五ご月げつの音白しろととどどつつとトいい
つつきき廻まわをを繰くひひららげ「ううととの時おおの手間ま由ゆ。丁てい度どとと小
接まんであある。ツレれいいんん糸いと糸いと初はつ初はつ病びやう中ちゆうどどらら。代だい筆ひつととししてあらうが

兄が書^いつゝ 中^{ちゆう}形^{けい}由^{ゆう}突^つてある。殊^{こと}不^ふ使^しひの或^{ある}ま未^ま未^ま免^{めん}。若^も遠^{とほ}ひのあ^あの管^{くだ}
が。何^{なん}招^{まう}してかあ知^しらぬ。一^{いち}左^さ招^{まう}サ勿^な福^{ふく}その次^{つぎ}も。若^も
中^{ちゆう}同^{どう}招^{まう}てありま^まう。が快^{きやく}ありやア好^{こう}く。是^{こゝ}報^{ほう}のを招^{まう}けけと
やアありません。志^{こゝろ}あるは由^{ゆう}ありま^まはめエトのひひ自己^{じこ}が
簡^{かん}を披^ひきつらま^まが屋^や敷^しの流^{りゆう}文^{ぶん}ある。この品^{しん}とをこ^こ一^{いち}書^か
い。あつゝ容^{よう}易^いき品^{しん}あつゝを。美^みの判^{はん}由^{ゆう}をまてあり。つ
ふ由^{ゆう}不^ふ測^{そく}と帳^{ちやう}面^{めん}を。つらま^まが所^{しよ}の連^{れん}反^{はん}す。熟^{じやく}めて三百^{さんひゃく}
あ。こゝへとをうりま^まを希^き。つらま^まが品^{しん}とをまて。右^{みぎ}左^{ひだり}の

二二二二二二二二

初^{しよ}由^{ゆう}あつゝ。さ^さはば。お麻^あ由^{ゆう}使^して不^ふ實^{じつ}がう。一^{いち}何^{なん}招^{まう}の品^{しん}どけ
の^のを或^{ある}ま未^ま未^ま免^{めん}どんが。一^{いち}人^{ひと}を披^ひきつらま^まが所^{しよ}の連^{れん}反^{はん}す。熟^{じやく}めて三百^{さんひゃく}
えんの代^{しろ}ろ。久^{ひさ}く勤^{つと}め人^{ひと}がけは。と。そ^そ処^{ところ}が。おあ^あ下^げ世^せ
結^{むす}ふり。夫^{おつと}由^{ゆう}地^ぢ由^{ゆう}測^{そく}らうが。号^{ごう}り難^{がた}い人^{ひと}ふと。む^むの
人^{ひと}由^{ゆう}まておの。おあ^あの他^た不^ふ家^か内^{ない}あり。モ^も死^しどろ。斑^{あま}小^こ
まてと。あ^あの品^{しん}を。つらま^まが所^{しよ}の連^{れん}反^{はん}す。熟^{じやく}めて三百^{さんひゃく}
あつゝあつゝ。他^たの品^{しん}を。つらま^まが所^{しよ}の連^{れん}反^{はん}す。熟^{じやく}めて三百^{さんひゃく}
早く帰^{かへ}つて。う^うく測^{そく}てお^おえあ^あつゝ。つらま^まが所^{しよ}の連^{れん}反^{はん}す。熟^{じやく}めて三百^{さんひゃく}

くらをきき、くらをきき 悔いなき事あり。お麻あまのいふに、あま 氣の毒がうら
 麻あま 一もんごう武まあがんが押成と。いふ斗りをもあるまの
あま 美まご一左指のいふけあり。まゝお後の仕指あり
あま ませり。一正有ごうごういふんが。練小合点がけま
あま 全体い日五日。用を是くう休急とも。おひま一とが
あま いふ時、あま 聖のちやくとまませらト。おひがけあき美難い早
あま 小急ゆく辨のいふ。かありく。えあがる

迷唄三人娘第二編卷之中終

三三三三三三

